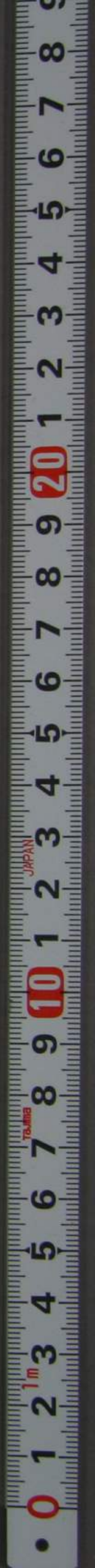


114
A 2535

具
考可供高覽旨議長ヨリ被命候ニ付奉差上候敬
 謹啟別冊ハ去ル三月中憲法亦六十七條ニ付博
 士口舌ノ往復仕候譯文ニ有之候為御參

五月廿八日

伊東巴代若拜



秘

憲法第六十七條問答

憲法ヲ六十七條ニ付キ左ニ託スル
所ヲ考察セラレ 詠問題ニ付キ高説
ヲ敬示セラレンエトヲ希望ス抑同
條ノ目的ハ貴下ノ熟知セラル、如
ク議會カ財務ニ関シテ政府ノ經費
ヲ監督スルノ權ヲ執行スルニ於テ
其趣エ可テサルノ限界ヲ概定スル
ニ在リ而シテ詠條ハ其意義ヲ明瞭
ニセンカ為メ特別ノ法律ヲ要スル

ノ義ニアラサルハ論ヲ待クサルナ
リ裁判所構成其他臣民ノ權利ニ関
スル条項ニ於テハ此種ノ特別法ヲ
許容シ且之ヲ必要トスルノ場合
リト云トモ亦六十七條ノ場合ニ於
テハ斯ノ如キ特別法ヲ要スルノ意
義ヲ有スルエトナシ要スルニ該条
ハ結局絶対ノ規定ニシテ特別ノ法
制ヲ要スルエトナシ
本条ノ意義ヲ明確ニシ以テ行政各

部ヲシテ其範圍ヲ知ラシメンガ為メ内
閣ハ訓令ヲ發スルヲ得ルモノトス然レト
モ訓令ニ代アルニ時ノ内閣大臣ノ
意見ニ適合スル如キ法律ヲ以テスル
ハ憲法ノ安固ノ為ニ甚ク危険ナリ
トス何トナレハ若シ一タヒ法律ヲ
以テ憲法ノ意義ヲ左右スルヲ得ル
コトヲ是認スルトキハ議會ハ何時ニテ
モ憲法ノ或ル条ニ関シ法案ヲ
提起シテ憲法ノ意義ヲ左右センコ

トテ企図スルニ至ルヘケレハナ
リ若シ一タヒ斯ノ如キ惡例ヲ是
詛スルトキハ何ソ國家ノ大宝典
ノ安固ヲ保ツテ得ンヤ憲法修正
ノ為ニハ至尊ノ勅命ヲ待テ全院
三分ノ一以上ノ多数ヲ要スル填
重ノ意果シテ何処ニアルヤ故ニ
内閣ハ宜シク行政各部ニ訓令ヲ
發スルヲ以テ満足スヘキナリ
若シ内閣ニシテ之ニ反シテ法律

ヲ以テ本案ノ意義ヲ確定シ其責ヲ
免トント欲スルトキハ議會ハ詠法
ヲ不満足ト為スニ於テハ其立法權
ヲ使用シテ詠法ノ廢止ヲ發議スル
ヲ得ヘシ其結果タル内閣ト議會ノ
間ニ憲法ノ解紙ニ関シテ恐ルヘキ
ノ軋轢ヲ生スルニ至ルヘシ況ンヤ
政府ハ其規定ヲ議會ノ上ニ強ヒン
トスルノ目的遂ニ達スルノ機會ヲ
得サルニ於テテヤ加之上來既ニ陳

迷シタル如ク若シ内閣ニシテ此件
ニ関シ法律ヲ制定セント試ムルト
キハ其餘響ハ遂ニ憲法ヲ左右スル
ニ至ラン
以上陳述シタル諸点ニ對シ高諭ヲ乞
フ敬具

三月廿日

伊東巳代治

博士ロエスル貴下

去世日ノ貴翰ニ對シ卑見ヲ呈スル
コト左ノ如シ
憲法第六十七條ハ甚タ明晰ナクケ
リ若シ仮ニ之ヲ以テ的確ナリトス
レハ其記載スル所ハ單ニ大体ノ主
義ニ止リ之ヲ歲計事件ニ適用スル
ニ於テハ疑ヲ容ルノ点多クニシテ
爭議ヲ醸生スルノ恐アリ
本条ニ記載スル天皇ノ大權トハ何

ノ意義ナルヤ蓋シ憲法ニ於テハ天皇ノ大權ヲ規定スルニ或ハ大体ニ於テシ或ハ特別ノ場合ヲ以テセリ故ニ本條ニ於テハ或ハ大權ノ全部ヲ指シ或ハ行政權ノ全部ヲ指シ或ハ特ニ憲法ニ於テ明記シタル行政權ノミヲ指スモノト為スヲ得ヘシ又既定ノ歳出トハ何ノ意ナルヤ豫美各項目ノ先願ヲ云フノ意ナルヤ或ハ特ニ指定シタル項目ノミヲ指

スヤ又ハ各首ニ該当スル先願ヲ云フノ意ナルヤ
法律上ノ歳出(法律ノ結果ニ由ル歳出ノ意カ)トハ何ソヤ又法律上國家ノ義務(法律上政府ノ義務ノ意カ)トハ何ソヤ又条約ニ由テ生スル歳出ニ就テハ如何ノ方法ヲ取ルヤ又法律上ノ歳出ニシテ法律ニ於テ其額ヲ定メサルトキハ如何ナル規則ニ従フヘキヤ

豫備費其他年々変更スヘキ性質ヲ
帯ヒタル歳出ニ就テハ如何ナル規
則ヲ遵守スヘキ又唯一回ノミ生ス
ヘキ歳出若クハ偶然避ク可ラサル
事故ノ為ニ生シタル歳出ニ就テハ
如何ナル措置ヲ為スヘキヤ
右ニ託載スル所ノ疑問其他仍ホ起
ルヘキ疑問ハ実ニ重大ノモノニシ
テ之ヲ確定セン為ニハ規則ヲ制定
シテ以テ政府並ニ議會ニ遵守ノ義

務ヲ負ハシナサル可ラス若シ然ラ
サルトキハ六十七條ノ執行ハ底
止スルナキノ紛争ヲ醸生シ遂ニ延
テ政府ノ地位ヲ危険ナラシムルニ
至ラン
斯ノ如キ規則ヲ制定スルノ途ハ唯
タ法律ニ在ルノミ單ニ訓令ヲ發ス
ルトキハ議會ハ之ヲ遵守スルノ義
務ナサルヘシ蓋シ政府ハ單ニ一ノ
命令ヲ以テ議會ノ財政權ヲ斯ノ如

キ範圍ニマテ將制スルノ權ヲ有セ
サルコト明白ナリ若シ豫美ニシテ
毎年必ス議會ノ改竄ヲ以テ成立ス
ヘキモノナル以上ハ政府ハ議會ノ
改竄ヲ考スヘキ範圍ヲ限定スルノ
權アルコトナシ若シ之ヲ限定スル
トキハ政府ハ憲法ノ一大要義ヲ破
壞スルニ至レン其要義トハ即チ豫
美ノ成立ニ議會ノ改竄ヲ要スト云
フ是レナリ故ニ前陳ノ規則ヲ制定

セント欲スレハ法律ニ依ルノ外其
道アルコトナシ且余ノ思惟スル所
ニテハ議會ハ決シテ命令若クハ訓
令ヲ以テ斯ノ如キ規則ヲ制定スル
コトヲ肯ンセサルヘシ
余ハ斯ノ如キ方法ヲ取ルニ於テ憲
法ノ為ニ危険ナリトスルコト能ハサル
ナリ斯ノ如キ規則ヲ制定スルハ取
モ直サス汝ノ天皇ノ大權向ニ屬セス
且憲法ニ於テ規定セサル件ハ法律

ヲ以テ制定スヘシト云フ主観ヲ実
行スルニ外ナラス又憲上ヨリ觀察
ヲ下ストキハ法律ニ依ルヲ以テ最
モ正当ノ方法ト思惟セサルヲ得ス
法律ヲ以テ其意義ヲ決定スルモ決
シテ之カ為ニ憲法ヲ破壊シ若クハ
其真意ヲ左右スルノ恐アレサルナ
リ亦六十七條ノ原理ハ依然變更ス
ルコトナク唯ク其原理ニ由テ特別
ノ場合ヲ指定シ以テ該原理ノ含有

スル所ヲ明瞭ニ記載スルニ過キサ
ルナリ故ニ其法律ノ規定スル所ニ
シテ本條ノ正当ナル解釈ニ反スル
コトナカテシナハ本條ノ原理ハ決
シテ破壊變動サル、モノニアラス
普魯西其他二三ノ國ニ於テモ之ト
同一ノ問題ヲ生シタルコトアリキ
殊ニ財政ニ関シテ最モ然リトス普
國憲法ノ或ル條ニ於テ左ノ規定アリ
曰ク豫美ノ超過ヲ生シタルトキ

ハ議會ノ事決承認ヲ要スト此條ノ
意義及適用ニ關シテ議會ト政府ノ
間ニ永ク爭論ヲ生シ遂ニ法律ヲ以
テ之ヲ規定セリ他ノ條ニ於テハ先
ツ大體ノ主義ヲ記載シ之ニ付スル
ニ詳安ノ件ハ法律ヲ以テ規定スヘ
シト云ヘル一項ヲ以テセリ今日本
憲法第六十七條ニ於テハ斯ノ如キ
一項ヲ附加セスト云トモ之ヲ附加
シタルト同一ノ解釋ヲ下サ、ル可

ラス何トナレハ詳細ノ件ハ憲法ニ
於テ規定スルコトナク又命令ヲ以
テ定ムヘキモノニアラサレハナリ
斯ノ如キノ法律ハ政府ト議會ノ間
ニ於ケル權衡ニ依リ若クハ實地ノ
經驗ニ依リ時々変更アルヲ免レス
是レ諸外國ニ於テ既ニ通過シタル
實驗ニシテ豫美ノ確定ニ關スル規
則ハ多少ノ変更ヲ經サルナシ而シ
テ多クハ議會ノ為ニ利益ヲ右メテ

ル、ノ傾向アリ是レ蓋シ避ク可テ
サルコトナラン然レトモ之カ為
ニ一時規則ノ制定ヲ妨クルノ理ナ
シ之ヲ要スルニ一モ規則ヲ設クル
コトナク此問題ヲ全ク暗黒裏ニ置
カンヨリハ寧ロ時々ノ変更ヲ忍テ
規則ヲ設クルニ如カサルナリ
以上開陳シタル卑見ハ此重要且困
難ナル問題ニ対シ聊カ貴下ノ論断
ニ補益アランコトヲ希望ス敬復

千八百九十年

三月廿四日

伊東君貴下

ハ、ロエストル

十

